



神田和泉屋だより

天と地の恵みと
 湯い入の心で
 醸し出す
 本物の酒

明けましておめでとうござります 今年もよろしくお願ひ申し上げます

お酒の話

お酒の免許

数ヶ月前の週刊誌「読売ウィークリー」に「酒小売店の現状の記」が載りました。小泉政権の構造改革の一環として免許の自由化が進み、売り上げ80%減という小売店もあり、全国の酒小売店(約15万店)のうち18000軒が廃業、30名が自殺、自己破産?の行方不明400件など衝撃的な記事でした。

「ディスカウンターの出現だけでなく、すでに今までに段階的に免許は自由化され、コンビニにもずいぶんとお酒が置かれるようになり、酒だけに頼っていた酒小売店は売り上げを失い、一家の大黒柱

が外へ働きに出たり、奥さんがワープロアルバイトをするなどということが数年前から始まっています。約60年も続いたお酒の販売免許もいよいよ今年9月で実質的になくなりそうです。

25年くらい前のことだったでしょうか、「免許の自由化」が国税庁から流通に伝えられました。今まで免許制度に保護されてきた業界としては、他業種のように生き残りのための競争、淘汰の経験をもたないで来たためにこのショックは大きく、「酒もマヨネーズと同じにスーパーで安く売られることになるぞ」と当然のことながら大騒ぎ!

同組合」の設立をうながし、そこに卸し(問屋)免許を与え、き残れるように便宜を図りました。そのことから組合は、多少は「オリジナル商品の開発」みたいなこともしましたが、あまりうまくいかず、結局のところ将来に出ると思われるスーパーの安売り価格に對抗するために「共同仕入の仕組」を作り、安い仕入れを目指しました。しかしビールにも大手の清酒にも「特約店」という制度が存在し、問屋免許である「卸し免許」を取得しても、実際の商品の流れは「特約店」を経由するものでした。「特約店」は大手の問屋です。なんのこ

とはない力のある小売店は独自にその程度の特価は入手できましたし、大手問屋の競争に便乗してどの小売店も「協同組合」を通さなくても同じ価格で商品を仕入れることができました。力の結集は絵に描いた餅となり、現在「協同組合」は力を失い解散寸前の状況も各地で見られます。しかも皮肉なことにもその時がきたとき安売りをするとスーパーであったはずなのに、実際には組合員がディスカウントになるという思ってもみなかった現実があります。

そして尻に火のついた今、1000円の商品(発泡酒)では生活ができないことに気づいた小売店が生きる道を求めたのは「地酒」と「インターネット販売」です。しかし単に今まで酒を売ってきたから酒専門店なんだ、

という「わか地酒屋」には商品に一貫性が無く誰も来てはくれません。「インターネット販売」の世界では、良いこと?も起こっています。後継者不足の酒小売店も息子さんがインターネットで商売ができるなら...と跡を継ぐケースも数多く見られたことです。そこでは「ワイン」が商材に選ばれています。品選り方も、自分が喰うためのもの、の感は否めません。

もう社会的な使命感をもって商売をする、そんな余裕は持ちようもありません。今年9月の免許の自由化の後には、おそらく外国の酒小売店の進出があるかと思われまます。以前に市場調査をかねてでしようか?ニューヨークから訪ねてきた酒小売店がいます。なんと毎月ヨーロッパから40フィートコ

ンテナー10本もの量のワインを輸入しています。本数にして約18万本です。その彼が日本に進出することも考えられます。近い将来にこんな大きな力が外国からも押し寄せてくる可能性は大です。はたしてこの時にも今と同じ「インターネット販売」が続けられるでしょうか？

長く続いた免許制度の中で酒小売店は哲学、社会的使命感をもつことを忘れてきました。消費者から必要さを認められない既存の酒小売店はさらに衰退、廃業へと追い込まれるのは、やむを得ないことです。ただ問題は、流通革命の名の下に産直が、あるいはスーパーやコンビニチェーンへの市場を通さない流通は一部のところある商人の「これが良いよ！」のチエックをも排除。ほんとうに良いものが流通からはずされか

けていることです。残念ながらすべての小売店がその仕事を全うしてきたとは言いきれませんが、その人たちが生き残ることより、ほんものが流通を失い、生産すらなくなつてゆくことが心配です。

お酒で言えば、次第に「地酒小売店」もトータルの売り上げ（地酒だけの小売店はほとんどない）減で廃業やコンビニ二化となり、スーパーやコンビニチェーンなどの大手の流通機構に関係をもつ商品だけが消費者と巡り会う機会（陳列棚）をもち、そうでないお酒は消費者との接点を失つて行くことが予想されることです。良品を生産する生産者はどこに販路を求めたらよいのでしょうか？ 地酒清酒メーカーはどうしたらこの民族のお酒を造り続けられるのでしょうか？

規制緩和、酒販売

免許の自由化によって、流通や消費者の買い物のスタイルがすっかり変わつてしまふ前に、他業種や脱サラから民族の酒を守るような社会的使命感をもつ新しい「こころの商人」が出るのでしょうか？